

乳腺の発達と泌乳量について

このほどヘルシンキで行われた学会でカナダから来た研究者から聞いた非常にユニークな話がありました。

乳腺の発達には二つの大事な時期があります。一つは3か月令の性成熟前のギルト育成期、そしてもう一つはギルトの妊娠期間の最後3分の1の飼養管理です。乳腺の発達はホルモンの複雑な相互作用で営まれるものですが、妊娠期には特にエストロジェンとプロラクチンというホルモンの作用が際立って重要と考えられています。

乳腺の発達と栄養は相互に関連があります。栄養が良ければより大きく乳腺が発達するのではなく、3か月令という性成熟前のギルトや初めての妊娠末期の高エネルギー飼料はとにかく控えなければならないことが研究の結果からわかっています。いずれにしてもこの時期に多給すると乳腺・乳房の発達にはマイナスの効果以外ありません。太ったギルトは乳腺の発達も乳量も同じ体重のギルトに比べて劣っていることがデータからも知られています。

乳房の退縮も重要な要素です。乳房は吸われなければどんどん縮んでいきます。3日間吸われないともう退縮し始めるのです。誰も吸わなかった乳房は次回の乳量も限定されてしまい、乳量を最大30%も減少してしまうそうです。これは子豚の離乳体重で換算すると1.1kgもの生産性低下になってしまいます。子



豚は本能的に前回吸われていた良い乳房かどうかを見極めることができるので、しっかりと授乳できる乳頭のみを仲間と争うということになるのです。

母乳の乳量の目標値は3週間の哺乳期間として一日当たり16kgにもなります。これほどまでも泌乳が期待されているのですから、発達の要になるギルト育成期および分娩前の栄養に特に注意しなければなりません。その上で開始頭数のセッティングで、あまり極端に少ない頭数で始めるのは得策ではないのは理解していただけたのではないのでしょうか。ギルトが持つ乳頭に合わせて順当な数の子豚を付けて授乳刺激を適正に与えることは次の分娩時の良い乳房の発達温存にも重要なようです。

(デビッドバーチのメッセージをもとに)